

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	学校給食センター運営事業	会計名称	一般会計		担当課	学校給食センター	
		予算科目	10 款 6 項 3 目	事業番号	5212	所属長名	鶴岡正直
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	安田教	
法令根拠等	学校給食法、学校給食実施基準				実施期間	【開始】	平成 28 年度
総合計画での位置付け	生涯教育都市の創造 学校教育環境の整備・充実					【終了】	平成 年度(予定) ■ 設定なし
総合計画における本事業の役割	学校給食環境の整備・充実を図ることは、安全で安心な給食を提供することに直結することから、妥当性・有効性・効率性の観点から点検を行うことにより、必要な事業の実施を行うこととする。						
事業の対象	市内小・中学校の児童・生徒及び中山幼稚園児			事業の目的	市内小・中学校の児童・生徒及び中山幼稚園児の心身の健全な発達と、食生活の改善に寄与する学校給食を提供する。		
事業の内容 (整備内容)	在学する全ての児童・生徒及び中山幼稚園児を対象に、関係法に基づき栄養内容・衛生基準等に配慮した学校給食を適切に提供する。			昨年度の課題に対する具体的な改善策	給食献立や物資購入の入札について、献立委員会において関係者との協議・連携を図る。また、昨年度は文部科学省や厚生労働省のマニュアルに準拠して運営してきたが、伊予市独自の衛生管理基準や危機管理マニュアル等を作成し、学校給食関係者と共通認識のもと、衛生管理等の更なる徹底を図る。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	28 年度実績	29 年度予定	9月末の実績	29 年度実績
直接事業費	110,579	145,595	△ 12,800	0	0	127,876	学校給食平均提供日数	日/1校	126	185	83	185
財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0	運営委員会	回	2	2	1	2
	県支出金		0	0	0	0						
	地方債		0	0	0	0						
	その他		0	0	0	0						
一般財源	110,579	145,595	△ 12,800	0	0	127,876						
職員の人工(にんく)数	0.80	10.00				10.00	献立委員会	回	0	4	1	4
1人工当たりの人件費単価	8,086	8,017				8,017						
※ 直接事業費+人件費	117,048	225,765				208,046						
主な実施主体	直接実施(嘱託職員10人及びパート12人を含む。)		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)				見学会	人	412	500	156	594
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	34 年度	5年間の合計		
					138,120	137,700	137,700	137,700	137,700	688,920		
成果指標	指標	学校給食平均提供日数/提供しなければならない平均日数	単位	⇒	区分年度	28 年度	29 年度	30 年度	目標 毎 年度			
			%		目標	100	100	100	100			
	指標設定の考え方	栄養や衛生管理基準等を満たした適切な学校給食を、学校給食実施基準で定める「提供しなければならない日数」について提供していく必要があるため。			実績	100	100					
	指標で表せない効果											

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		献立委員会 (年4～5回) の開催を運営委員会にて決定し、学校関係者ととも献立内容の協議、給食用食材の開札等を実施した。 伊予市独自の衛生管理マニュアル、異物混入対応マニュアル等の学校給食運営に関するマニュアルについて、内容を検討し案を作成した。									
事業	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	5	合計点が	A	事業成果・工夫した点	センター運営も2年目となり、学校関係者や施設管理関係業者等と密に連携を図るとともに、伊予市独自の学校給食衛生管理マニュアルや異物混入対応マニュアル等を策定し、学校にも周知して共通理解のもと衛生管理の徹底を図り、安全安心な給食を無事子供たちに届けることができた。 年2回の運営委員会のほか、献立委員会 (年4回) を開催し、学校関係者ととも献立内容の協議、給食用食材の開札等を行い、適正な学校給食の運営を図った。 また、給食を実際に食べている児童生徒 (小学校4・6年生、中学校2年生) を対象に「給食についてのアンケート」を実施し、子供たちの給食に対する意識や意見等を把握し、今後の学校給食の充実のための参考とすることができた。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	3					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4					
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	4					
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。	4					
			施策への貢献度	5 4 3 2 1	施策推進に向け、効果を認めることができる。 施策推進につながっていない。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	4					
	効率性	手段の最適性	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	5 4 3 2 1	投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	3					
			コスト効率	5 4 3 2 1	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。	4					
			市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1	他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	4					
		妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	5					
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	4					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4					
有効性	事業の効果	市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	5 4 3 2 1	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	4						
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。	4						
		施策への貢献度	5 4 3 2 1	施策推進に向け、効果を認めることができる。 施策推進につながっていない。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	4						
	効率性	手段の最適性	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	5 4 3 2 1	投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4					
			コスト効率	5 4 3 2 1	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。	4					
			市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1	他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	4					
一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	5						
		社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	4						
		市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4						
	有効性	事業の効果	市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	5 4 3 2 1	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	4					
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。	4					
			施策への貢献度	5 4 3 2 1	施策推進に向け、効果を認めることができる。 施策推進につながっていない。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	4					
効率性	手段の最適性	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	5 4 3 2 1	投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4						
		コスト効率	5 4 3 2 1	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。	4						
		市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1	他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	4						
評価	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	5					
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	4					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4					
	有効性	事業の効果	市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	5 4 3 2 1	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	4					
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。	4					
			施策への貢献度	5 4 3 2 1	施策推進に向け、効果を認めることができる。 施策推進につながっていない。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	4					
効率性	手段の最適性	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	5 4 3 2 1	投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4						
		コスト効率	5 4 3 2 1	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。	4						
		市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1	他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	4						
事業の方向性	事業の方向性	事業の方向性	5 4 3 2 1	事業の方向性は適切である。 事業の方向性は適切でない。 事業の方向性は不明である。	5						
		事業の方向性	5 4 3 2 1	事業の方向性は適切である。 事業の方向性は適切でない。 事業の方向性は不明である。	4						
		事業の方向性	5 4 3 2 1	事業の方向性は適切である。 事業の方向性は適切でない。 事業の方向性は不明である。	3						
	所屬長の課題認識	所屬長の課題認識	事業の方向性	5 4 3 2 1	事業の方向性は適切である。 事業の方向性は適切でない。 事業の方向性は不明である。	5					
			事業の方向性	5 4 3 2 1	事業の方向性は適切である。 事業の方向性は適切でない。 事業の方向性は不明である。	4					
			事業の方向性	5 4 3 2 1	事業の方向性は適切である。 事業の方向性は適切でない。 事業の方向性は不明である。	3					

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 市民に身近な事業であることから、行政評価委員会に諮る。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外部評価	<p>答申の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のいろいろな希望も聞きながら、給食事業を進めてほしい。</li> <li>・町田市の行政シートでは、学校給食事業に1食当たりのコストを開示している。安全性・衛生に留意するため行政が 関与する必要があるのは理解できるが、加えて効率性があれば、市民の判断に役立つデータになると思う。</li> <li>・食の安全はお金で買えない。まして児童である。各種対応マニュアルで適正な運営に心掛けている。今後も適切な運営をしていただきたい。1食当たりの金額は一つの指標にされた方がいいと思う。</li> <li>・コミュニケーションを取りながらよくやっていると思う。</li> <li>・囑託はいずれこの自治体でも大変である。1食何ぼはどの市町でも割り出せる。それが一番市民の皆さんに伝わりやすい。</li> </ul>
------------	------	--

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性		コメント欄 コスト意識を持って事業を進めるためにも、市民への周知、理解を得るようなPRを行う。
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/>	右記の点を見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を行う。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を行う。	